令和2年度 小集団体験活動「アタック・ゴー」の実施状況

青少年育成課 教育相談センター

1 実施状況

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	計
月/日	中止	中止	8 /28	10/23	11/12	中止	中止	
形態			日帰り	日帰り	日帰り			
場所			姫路平和資料館 あお陶遊館アルテ	加古川市立漕艇センター	加古川市立総合体育館			_
主 な プログラム			・資料館見学 ・陶芸体験	・鍋敷き作り・アイスクリーム作り・レガッタ体験	・パラスポーツ体験 (ボッチャ、車椅子バス ケットボール)			
小学生			1人	6人	4 人			11 人
中学生			9人	22 人	8人			39 人
保護者			0人	1人	1人			2 人
ボランティア			0人	6人	7人			13 人
メンタルサポーター			1人	3 人	0人			4 人
スタッフ			5 人	5 人	5 人			15 人
教員			0 人	1人	0人			1人
外部講師			0 人	2 人	5 人			7人
参加者総合計 92 人 (内 児童生徒 合計 50 人)								

2 今年度の特徴

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していた宿泊体験や調理体験、保育体験を断念した。しかし、レガッタ体験やパラスポーツ体験など、外部講師や学生ボランティアとかかわる機会を設けることで、コミュニケーション力が向上し、達成感や充実感、自己有用感を育むことができた。

3 成果と課題

(1) 自然の中で心が安定し、活力が増すような支援

JR厄神駅から加古川市立漕艇センターまで加古川河川敷沿いを歩いたり、レガッタ体験をしたりと、自然の中で活動した。日ごろ閉鎖的な生活環境の中で過ごすことが多い児童生徒にとって、気力・体力を充実させるとともに、心の開放や安定につながる支援を行うことができた。

(2) 児童生徒の意思を尊重した自主性・自立心の育成

日岡山公園と日岡山体育館という広いフィールドを使って、思い切り体を動かせる環境を設定し、 児童生徒の主体性を育もうとしたが、新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、活動を中止した。コロナ禍でも開催できるよう、実施方法を見直す必要がある。

(3) 生活習慣の確立と、協調性・社会性・集団への適応力の育成

午前中に集合し、夕方まで活動するという学校と同じ生活リズムで活動することによって、学校復帰や適応指導教室への来室につなげることができた。また、異年齢の仲間と活動を共にすることで、友達と話し合ったり譲り合ったりする経験ができ、協調性や自主性、思いやりの心を育てることができた。

(4) 他者との交流を通じた対人関係への意欲喚起

外部講師や施設のスタッフ、学生ボランティアとかかわる機会やグループ活動を多く取り入れることで、児童生徒同士が様々な人と関わる機会を作り、コミュニケーション能力を自然と身につけられる場となった。

※コロナ禍だからこそ、児童生徒の心の安定を図る一つの手段として、体験活動を充実させることが、 来年度に向けての大きな課題である